資料 1-2

2015 年（平成 27 年）5 月 28 日（木）
第 26 回霧ヶ峰自然環境保全協議会 資料

延焼地影響調査の経過について

長野県環境保全研究所による調査（2014 年度 経過報告）

1　概 要

2013 年（平成 25 年）4 月に霧ヶ峰で生じた火入れの延焼による生態系（植生・動物・気象等）への影響を評価するため、環境保全研究所の経常研究の一環として経年観測（モニタリング）を実施中。

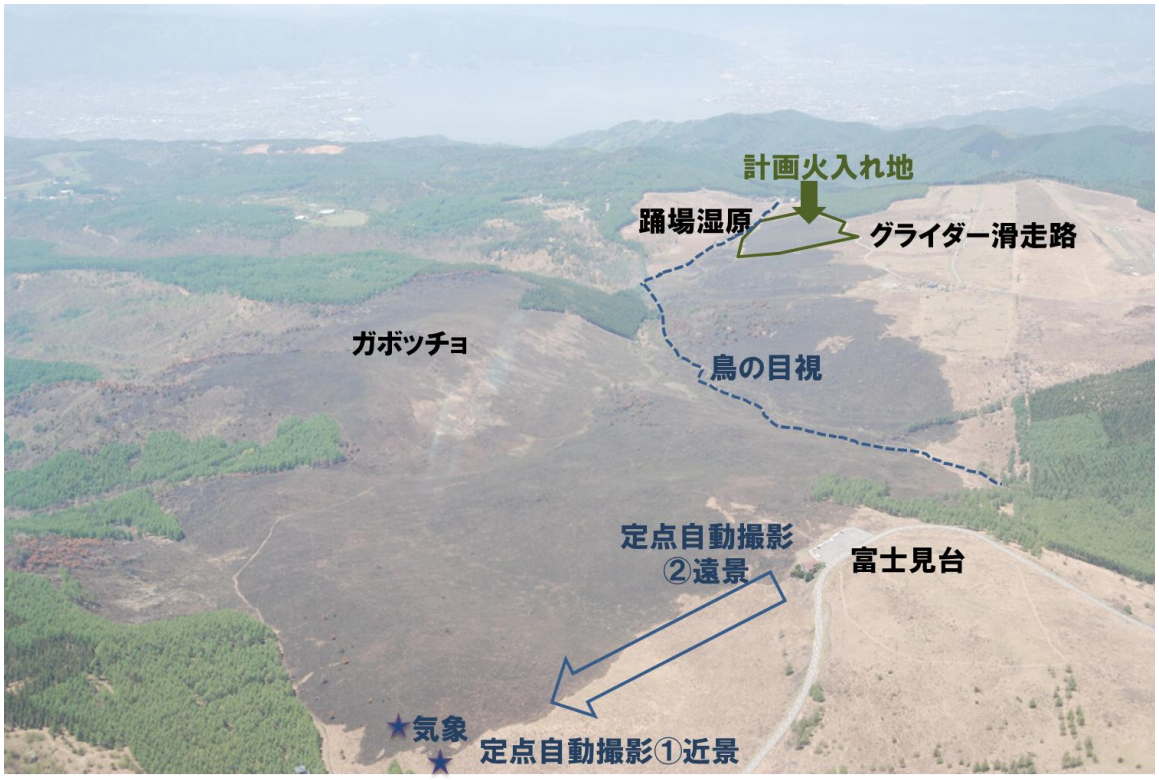
2014 年（平成 26 年）は、定点自動撮影カメラによる草原の季節変化（新緑等の時期）の調査、および鳥類の目視による調査を実施。また調査協力者より昆虫（チョウ類・ガ類）の目視による調査データの提供を受けた。

2　調査の実施期間

2013 年（平成 25 年）5 月から５か年程度（調査結果に応じて期間を検討）の予定。

3　調査地

霧ヶ峰高原（茅野市から諏訪市）の火入れ地・延焼地および隣接する非延焼地
（下の写真を参照）



図．調査位置図（空中写真の撮影は 2013 年、調査項目は 2014 年のもの）

４　調査内容と方法

調査項目	調査内容と方法	進捗状況
季節変化	・草原の新緑等の時期：定点自動撮影 （延焼地・非延焼地の比較）	・定時に自動撮影 （2014 年 4 月から）
動物相調査	・鳥類：目視による現地調査 （火入れ地～延焼地）	・2014 年 6 月 20 日・25 日に 計 4 回調査を実施
	・チョウ類・ガ類：目視による現地調査 （火入れ地～延焼地）	・2014 年 6 月 14 日・7 月 31 日に 計 2 回調査を実施
物理環境	・観測機器を設置 延焼地／非延焼地：２地点での観測	・気温・地温・土壌水分・反射日射を 測定（2013 年 9 月から）

５　2014 年度（延焼 1 年後）の調査結果と考察

（季節変化）定点自動撮影の画像により草原景観の季節変化を比較した結果、延焼地の方が非延焼地よりも、全体的に緑色におおわれる時期が早かった。ただし枯草の密度の差を主に反映している可能性もある。全体的な緑の濃さは 6 月に差が大きく、7 月以降は差が不明瞭となった。レンゲツツジの開花は、非延焼地の方が延焼地よりも多かった。

（動物相）鳥類とチョウ類に共通して、全体的な種構成は 2013 年に似た傾向が見られた。ともに草原性の種が多く確認されたが、鳥類では林縁性・チョウ類では森林性の種も確認された。

鳥類では、火入れを継続的に行っている場所ではコヨシキリが確認される。しかし今回の延焼地（火入れ 1 回に相当）では、コヨシキリが確認されなかった。

チョウ類・ガ類では、霧ヶ峰で通常多く見られる草原性の種のほか、レッドリスト掲載種 6 種が確認された。

（物理環境）現時点までの解析では、延焼地と非延焼地のちがいは明瞭ではない。

（今後の予定）延焼による季節変化・動植物種・物理環境等への影響は経年的に変化する可能性がある。その影響を把握するため、今後も継続して調査を行う予定である。